

報道関係者 各位

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国児童養護施設協議会

**「明日、ママがいない」の放送内容について
施設の子どもたちを、これ以上傷つけないでください。**

私たちは、ドラマ「明日、ママがいない」について、心に深い傷を負っている子どもたちの尊厳を冒し、児童養護施設に対する誤解や偏見を助長するとして、1月20日に日本テレビ放送網株式会社に対し抗議し、誠意ある対応をとられるよう要請しました。

ところが、残念なことに第2回放送(1月22日)においても、子どもを動物扱いしたり、恐怖心で子どもを支配する表現が多くみられるなど、改善がみられませんでした。

私たちは、同ドラマが子どもたちに与える悪影響を懸念し、実態を把握するために、都道府県の本会役員に対しアンケートを実施しました。

その結果、子どもが情緒不安定となり自傷行為に及ぶ事例や、施設の子どもがクラスメイトに心ない言葉をかけられる事例等が報告されました。

本日、本会は日本テレビ放送網株式会社に対し、あらためて別紙により、施設の子どもたちをこれ以上傷つけることのないよう、子どもの人権に配慮した番組内容とするように要請するとともに、同社の考えについて文書による回答(2月4日まで)を求めました。

《本会に報告された主な事例》

- (第1話を見た後)、第2話の放送時間が近づくと、「モヤモヤする。死にたい…」と繰り返す。職員が見る必要がないことを伝えるなど支援したが、本人は気になるようで第2話の放送も見た。放送終了後に自傷行為に及び、病院で治療を受けた。(女子児童)
- クラスメイトの男子生徒が、施設の児童を「おい! ポスト!」と呼びつける。それが何度も続き、児童は言い返せず黙ってしまい、苦しい思いをした。(女子児童)
- 施設の児童が放送翌日、クラスメイトの男子グループから、「お前もどこかにもらえるんだろ?」などとからかわれる。(女子児童)
- 親戚や友人から、「あんなひどい所に子どもを預けず、早く引き取るべきだ」と言われた。(児童保護者)

[実態報告について]

- 都道府県の本会役員67名に対し、1月17～27日の間に、ドラマがもとになって生じた問題や、ドラマを見た子どもたちの感想について、実態の報告をお願いしました。上記の事例はその一部です。
- 本実態報告は、子どもたちの心理面への負担に配慮し、子どもたちに対する一律の聞き取りや積極的な確認等は行っておりません。
- 子どものプライバシー保護や情緒の安定に配慮するため、上記に示すことのほか、施設名や施設所在地等も含め、詳細に係るご質問は、ご容赦くださいますようお願いいたします。

【お問合せ先】

全国児童養護施設協議会・事務局
TEL.03-3581-6503
E-mail.z-jidoयोग@shakyo.or.jp